



# 虹ヶ丘

<https://kawasaki-edu.jp/2/511/nizigaoka/>

## 自分の思いを表現する

校長 井上恵子

校長室から見える紅梅が濃い桃色の花で今まさに満開です。

1月28日は麻生不動のだるま市です。一年間、交通事故も大病もなく、無事に過ごせたことを感謝して、朝会でだるまに目を入れました。3年生が学校を代表して麻生不動に行き、お焚き上げをお願いした後に、新しいだるまを購入してきました。だるまには「かがやけ虹っ子」と書いていただいています。邪気や穢れを払う厄除けの縁起担ぎとして火打ち石でカチカチと火花を打ち、無事を祈願してくださいました。これまた、一年間、虹ヶ丘小学校を守ってくれると思います。

今、書き初め展を行っています。力作がそろいました。校舎内は「言葉」であふれています。3年生以上は毛筆での書き初めですが、その言葉を選んだわけ、言葉への思いを作品に添えています。「作品カード」は硬筆書写の学習ですから、思いがこめられていればよいというものではありません。「書写」は手本を学ぶものです。自分自身の文字を見つめ、その子らしい書きぶりを残しながら、手本を見て書く学習をしてできあがった作品カードです。授業参観に来られた際には、ぜひ、作品カードに書かれている文字も見てください。普段のその子の字よりも上手に仕上がっています。それは、一人一人異なる文章に手本があるからです。

文字を書き表す方法は、手書き以外にも選択できるようになりましたが、手で文字を書く能力も大切にしています。書写の学習は、整った字形の文字を書くための学習の他に、鉛筆の持ち方や動かし方の学習があります。そして、一番大事なことは、何のために、誰のために、どのように書くかを考えて書く学習です。一年の目標や願いを表現する場が書き初めです。丁寧に、心をこめて書いた作品カードを紹介します。

読売新聞の記事に、「AI普及 思考力が不可欠」という見出しの記事がありました。国立国語研究所教授 石黒圭さんへのインタビュー記事を引用します。

「AIは博學で表現力が高く、ある分野を幅広く調べて先行研究の当たりをつけたり、表現ミスを校正したりするのに向く。しかし、誤りがないか自分の目で確かめ、自分の頭で考え抜くのは、人の仕事だ」

「考えを文字にすることで、思考の輪郭がはっきりする。特に手書きは有力で、記憶の定着が高まる。国語教育では、書く機会をできる限り増やしてほしい。社会は言葉でできている。まとまった内容をきちんと発信できる人がいないと社会は滅びる」

小学生のAI使用には慎重に、見極めが必要という見解です。

先日、仲間と文章を作っていた時のこと。推敲段階で文や語の接続がうまくいかず頭を悩ませていました。「では、AIに聞いてみますか」となり、私たちの作った文章をAIに読ませ、表現の問題点を指摘させました。結果、「なるほど。思いつかなかった」という文章ができました。それからというもの、行き詰まるとすぐにAIに聞いてみたくなります。子どもたちが使ったら、書く力、考える力を失ってしまうのではないかと心配です。学校では、思考力や判断力を身に付けさせようと教育しているので、それを高めるように、上手にAIと付き合い合っていきたいものです。

2月4日、虹ヶ丘小学校の寺子屋がスタートします。放課後の居場所の一つとして利用してほしいと思っています。